

滄 溟 寮 々 歌

灘 井 巖 } 作 詩
 木 谷 益 }
 平 間 文 寿 } 作 曲

—ゆったりとうるおいにみちて—

ありそにはるのかげもえて—そ
 うめいは—るかおもうとき—わ
 かきいのち—のあ—ふ—れきてあ
 おぐやたかきほうのかげ—の
 ゑみそそ—らにえ—が—きつ—つ—つ
 ばさもたけくく—もそつく—

一、荒磯に春の光燃えて

そうめい遥か想うとき

若き生命の溢れきて

仰ぐや高き鷗の影

希望を空に画きつつ

翼も猛く雲をつく

二、浦安の山黄昏れて

かもめ翼を翹うとき

竜湖の丘をさすらえば

星くずおつる日本海

汝が魂よ強かれと

遠き漁火ささやきぬ